



高悪性度口腔癌の再発・転移にかかわる 遺伝子の解明

山川 延宏

Nobuhiro Yamakawa

口腔外科学／准教授

- **キーワード** 局所再発、頸部リンパ節転移、口腔癌
- **対象疾患** 口腔癌

シーズ概要

現在、口腔癌の手術後再発・転移や予後の予測は手術標本から得られる病理組織学的な因子により行われているが、これら予測因子のみでは予測できない症例が少なくない。そのため、再発・転移や予後に関与する因子の検索が行われている。特に近年では、新たな病理組織学的な因子を含め、腫瘍浸潤先端部に着目した検討が行われている。

本研究では、口腔癌患者の治療成績向上のために、再発・転移を起こしている悪性度の高い腫瘍における特異的な遺伝子の解明を腫瘍浸潤先端部に注目して行い、再発・転移のメカニズムにかかわる因子を明らかにすることである。再発・転移に関わる新たな遺伝子が同定できれば、治療効果の向上や新たな治療法の開発が期待される。

関連文献／特許

1. Tumor budding and adjacent tissue at the invasive front correlate with delayed neck metastasis in clinical early stage tongue squamous cell carcinoma. J Surg Oncol. 119. 370-378. 2019.

研究成果の応用可能性

治療効果の向上や新たな治療法の開発